

春芽アスパラガス 出荷最盛期



JA筑紫アスパラガス部会は8日、JA資材配送センターで部会定例会を開きました。部会員やJA全農ふくれん、JA筑紫担当職員など25名が参加。出荷規格や基準などについて部会員で意見交換や目合わせを行いました。春芽アスパラガス出荷は2月下旬から始まり、3月中旬には春芽の最盛期を迎える見込み。

JAの担当者は「出荷の最盛期に向けて管理を徹底し、高品質なアスパラガスを出荷しましょう」と呼びかけました。

旬のアスパラガスを美味しく味わって



JA筑紫アスパラガス部会は、ゆめ畑筑紫野店で販売促進イベントを行いました。

部会員が来店客に試食をふるまい、おすすめの調理方法などを説明。試食を味わった来店客が、アスパラガスを買う姿が多く見られました。

JA担当職員は「イベントでは、消費者が生産者の顔を見て購入できます。部会員自身が直接アスパラガスの美味しさをPRできるため、今後も続けていきたいです」と話しました。

新入職員が農業を体験



JA筑紫では、3月11日から5日間、生産者の圃場で、2019年度の新入職員を対象に農業研修を行いました。新入職員14名は、4つのグループに分かれ、アスパラガスや白ネギの収穫、土づくり等を体験。生産者の指導のもと、慣れない手つきで作業に取り組みました。

農業体験をした職員は「初めて野菜を育てる大変さを知りました。この経験をこれからの仕事の中でもいかしていきたいです」と話しました。

今後、新入職員は4月に入組し、研修で学んだ成果を発揮していきます。

筑紫野市農業女性グループ協議会が総会



筑紫野市の女性農業者で構成する筑紫野市農業女性グループ協議会は12日、JA筑紫資材配送センターで2018年度農業女性グループ協議会総会を開きました。会員や筑紫野市役所、福岡普及指導センター、JA担当職員など23名が参加。18年度の活動報告や、19年度の活動計画など全4議案が承認されました。来年度も新鮮で安全安心な農畜産物の提供、地域に根ざした食文化づくりなどを積極的に行っていきます。

粥占祭 今年の全般判断は「中」



筑紫神社で3月15日、かゆに生えたかびを見てその年の天候や農作物の豊凶などを占う「粥占祭（かゆうらまつり）」が行われました。かびの生え具合や色で占った結果、全般判断は「中」。また、天候面では雨が「少なし」、稲作の作柄は「中」、麦作の作柄は「中下」と出ました。

祭りは毎年行われる伝統行事で、200年以上の歴史があり、市の無形民俗文化財にも指定されています。占いに使うかゆは、2月15日に行われた「粥納（かゆおさめ）」で神職が炊いたもの。表面を県の旧国名に当たる筑前、筑後、豊前、肥前の四つに分けて本殿の御内陣に1カ月間納めました。取り出したかゆの表面を判断委員が確認しました。

味酒安志宮司は「今年も農作物の豊作をお祈りしたいです」と話しました。

生タケノコ 4月1日に集荷開始



JA筑紫は3月15日、JA営農センターで加工用生タケノコ出荷説明会を開きました。竹林を所有する組合員22名が参加。職員が集荷日程や集荷規格等、写真入りの資料を配付し説明しました。集荷は、4月1日から始まり、30日まで続く予定。昨年の集荷30tを超える生タケノコの集荷を呼びかけています。

説明会では、JA営農生活部の小金丸昌孝部長が「タケノコを多く出荷していただき農業者の所得の増大に繋げてほしいです」と話しました。

家畜に感謝と冥福を祈る



J A筑紫は3月26日、畜魂祭をJ A本店の畜魂碑前で執り行ないました。

J A肥育牛部会や養鶏農家、関連業者や行政関係者、J A役職員など28名が参列しました。筑紫野市阿志岐の圓徳寺の住職が読経し、白水清博組合長などが献花。家畜に感謝の気持ちを込めて供養しました。

種ショウガ出荷開始



J A筑紫生姜出荷組合は、筑紫野市の山口倉庫で、種ショウガ1400kgを種苗会社へ出荷しました。出荷組合員と種苗会社社員、農業振興課職員は、今年の種ショウガの出来具合などを確認し、熱心に意見交換しました。種ショウガは、種苗会社を通して全国に出荷されます。今年は、全体的に病気の発生が少なく、天候にも恵まれたため、品質は良好です。

組合員は、「伝統ある山口地区のショウガ栽培を絶やさぬよう、これからも続けていきたいです」と意気込んでいました。